

断章 旭川のアイヌ語地名研究

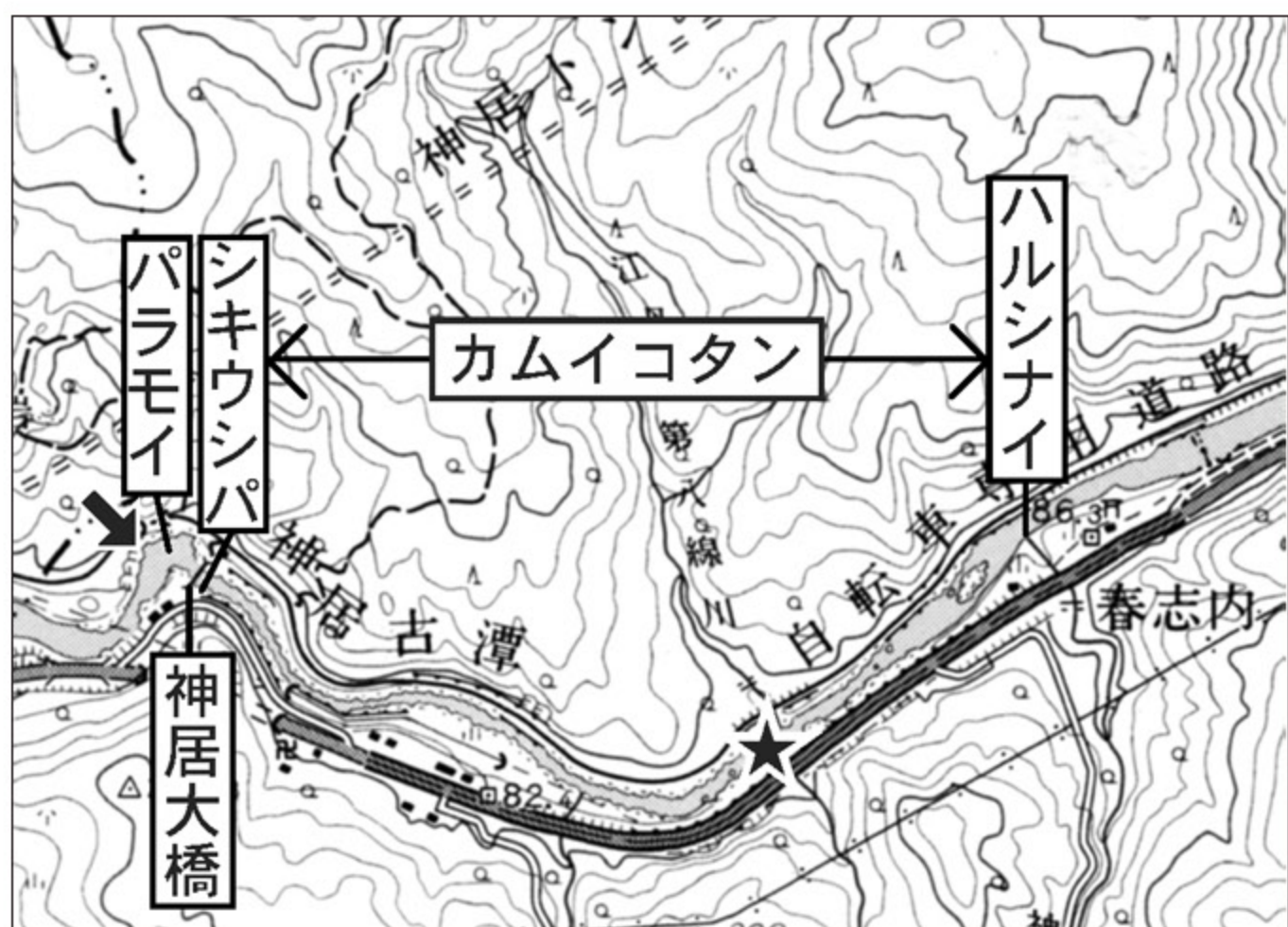
44

高橋 基

石狩川で最大の難所が、このカムイコタンである。丸木舟の操舟の名手のアイヌの人たちも、掲載図(現行五万分一図を八十五%縮小)のシキウシバからハルシナイの約二キロだけは、奇岩怪石で川幅が狭く、激流となり、丸木舟での上下が不可能であった。アイヌの人たちは、この間をカムイ・コタン(kamuy-kotan 神の・居所)と尊称していた。これに神居古潭の漢字が当てられ、明治二十四年に、この地名から神居村が誕生する。明治二十三年にここを調査した永田方正は、翌年、次のように地名解をした。

「カムイ・コタン(kamuy-kotan)の、[魔の里]と名づけられた。」
「カムイ・コタン(kamuy-kotan 神・村)―この場合のカムイ(神)はニツネカムイ(nitne-kamui 魔神)を意味する。ここは河中随所に奇岩怪石現われ、舟行の難所だった」

旭川のカムイコタン①



知里真志保は、『旭川市史第四巻』に掲載されたもので、以後は、旭川では、知里真志保の「カムイコタン」魔の里説を発表して、かつ、右の地名解は、『旭川市史第四巻』に掲載されたもので、以後は、旭川では、知里真志保の「カムイコタン」魔の里説を流布し、一般的な見解となった。

「カムイ・コタン(kamuy-kotan)の白波立つ激流を乗り越えて、やつとパラモイに着いて、安堵する所であった。写真は→印の位置から撮影したもので、正にパラモイ(Paramoi 広い・湾)の景観である。カムイコタンの峡谷を流れてきた激流が、中央に見える神居大橋から川幅が急に広くなり、湾のように見える流れになった所を名付けたものである。ここから多くの伝説の岩などがあり、次回からこれらを紹介していきたい。(アイヌ語地名研究会幹事)

「カムイ・コタン(kamuy-kotan)の白波立つ激流を乗り越えて、やつとパラモイに着いて、安堵する所であった。写真は→印の位置から撮影したもので、正にパラモイ(Paramoi 広い・湾)の景観である。カムイコタンの峡谷を流れてきた激流が、中央に見える神居大橋から川幅が急に広くなり、湾のように見える流れになった所を名付けたものである。ここから多くの伝説の岩などがあり、次回からこれらを紹介していきたい。(アイヌ語地名研究会幹事)

※毎月第1週号に掲載します